

決算説明資料

2020年11月26日

目次

| | | |
|---------|-------|----|
| 会社概要 | | 3 |
| 取組み・成果 | | 7 |
| 連結業績 | | 14 |
| 通期業績見通し | | 21 |
| 成長戦略 | | 29 |

会社概要

会社概要

社会インフラを支える水と空気のプロフェッショナル集団

社 名：ポエック株式会社 Puequ Co., LTD.

上場証券取引所：東京証券取引所 JASDAQ市場（証券コード：9264）

設 立：1989年1月25日

本 社：〒721-0973 広島県福山市南蔵王町2-1-12

代 表 者：代表取締役会長 来山（きたやま）哲二

代表取締役社長 采女（うねめ）信二郎

資 本 金：1,013,207千円（2020年8月現在）

従業員数：72名/連結229名（2020年8月現在）

事 業 所：仙台・北陸・東京・名古屋・大阪・岡山・広島・福山・松山・高松・福岡

連結子会社：株式会社三和テスコ（香川県高松市）出資比率100%

東洋精機産業株式会社（岡山県岡山市）出資比率100%

協立電機工業株式会社（神奈川県茅ヶ崎市）出資比率100%

環境・エネルギー事業 (売上高2,961百万円)

環境・水処理機器の販売・修理・保守

ポンプ



プレート&シェル
熱交換器



景観配慮型防潮壁
(SEAWALL)



オゾン発生装置



据置型
P03-5G



据置型
P03-12G

動力・重機事業 (売上高2,410百万円)

プラント設備

ボイラー・圧力容器等



大型船舶エンジン台版
エンジン台版



機械加工部品

小型精密部品



船舶用燃料弁等

防災・安全事業 (売上高732百万円)

消火装置

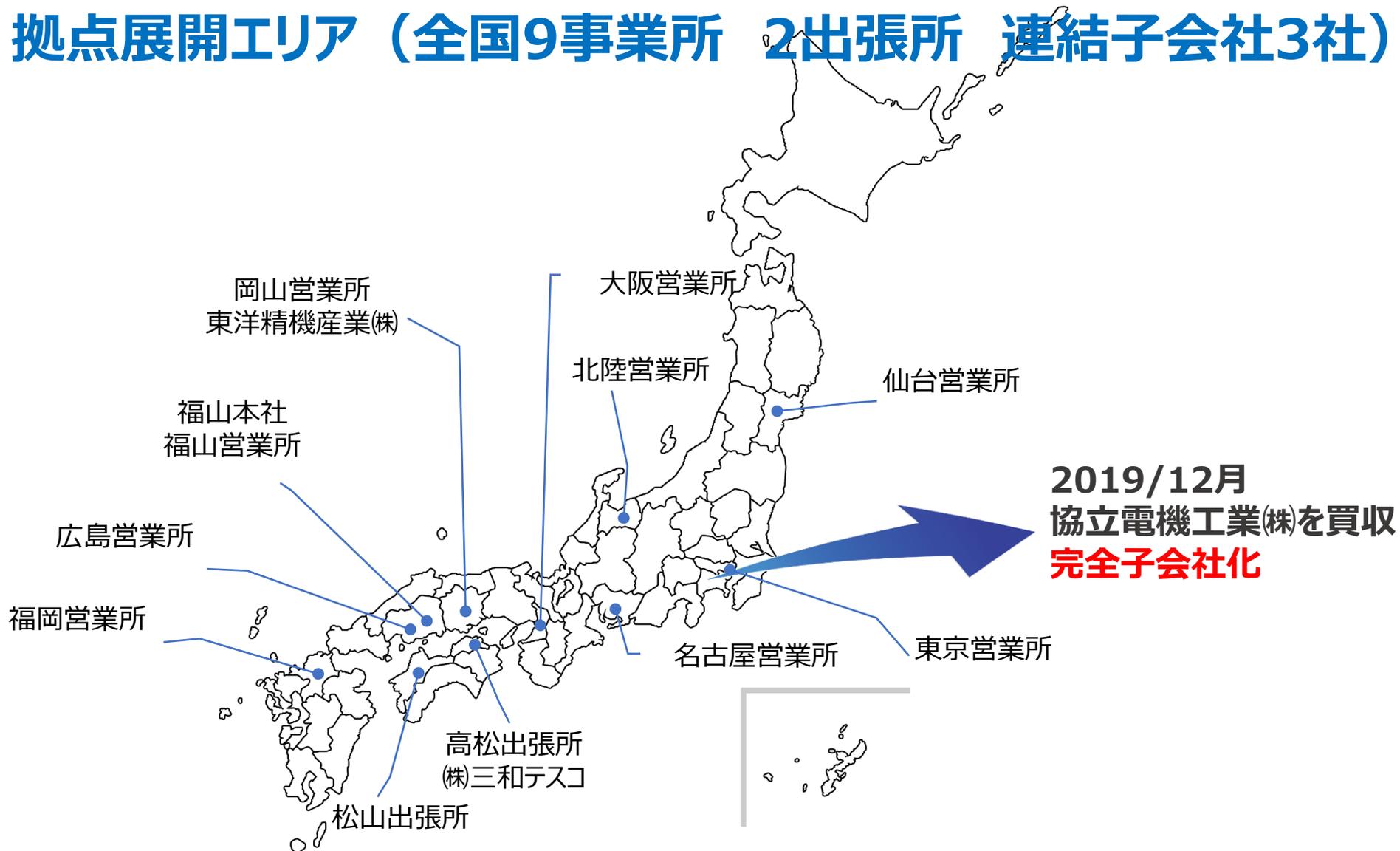
その他消防機器販売・設置工事

電気不要のスプリンクラー消火装置「ナイアス」



事業拠点

拠点展開エリア（全国9事業所 2出張所 連結子会社3社）



取組み・成果

連結業績

最高売上高

最高益 更新中

財務強化

自己資本比率

連結17% →

29%

単体30% →

46%

MSワラント実施によりM&A及び投融資資金を調達

JASDAQ上場後の変遷

経営指標

ROA 1.8% → 2.6%
(総資産利益率)

ROE 10.1% → 8.6%
(自己資本利益率)

調達資金を有望事業に投資、育成し、ROEを高める
→ポエックグループ共通の使命

連結グループ

M&A 2社

業績は順調に推移

協立電機工業(株)

(株)ミモト
(三和テスコと合併)

株主

株主数

843名 → 1,911名

経営規模

グループ^o社員数

182名 → 229名

業績に連動して事業規模を拡大

連結業績

主要な経営指標等

単位：百万円

| | 19/8月期 通期連結実績 | 20/8月期 通期連結実績 | 増減 |
|------------------|------------------|------------------|--------|
| 売上高 | 5,641 | 6,104 | +462 |
| 経常利益 | 193 | 255 | +62 |
| 親会社株主に帰属する当期純利 | 143 | 222 | +79 |
| 純資産額 | 1,674 | 2,579 | +904 |
| 総資産額 | 7,981 | 8,649 | +668 |
| 1株当たり当期純利益金額 | 73.80 | 104.69 | +30.89 |
| 自己資本比率 (%) | 20.9 | 29.8 | +8.9 |
| 営業活動によるキャッシュ・フロー | 151 | 104 | △47 |
| 投資活動によるキャッシュ・フロー | △178 | △31 | +147 |
| 財務活動によるキャッシュ・フロー | 175 | 460 | 285 |
| 現金及び現金同等物の期末残高 | 1,197 | 1,731 | +534 |

環境・エネルギー事業が
牽引

第三者割当による第
3回新株予約権の行
使による資本増加

連結貸借対照表 (B/S)

単位：百万円

| | | 19/8月期 通期実績 | 20/8月期 通期実績 | 前年同期比 (%) | 主な増減 |
|---------|-------------------|----------------|----------------|--------------|------|
| 資産の部 | 流動資産 | 4,189 | 4,698 | 112.1 | |
| | 固定資産 | 3,791 | 3,951 | 104.2 | |
| | うち有形固定資産 | 2,997 | 3,228 | 107.7 | |
| 資産合計 | | 7,981 | 8,649 | 108.4 | |
| 負債の部 | 流動負債 | 3,753 | 3,324 | 88.6 | |
| | 固定負債 | 2,552 | 2,745 | 107.6 | |
| | 負債合計 | 6,306 | 6,070 | 96.3 | |
| 純資産の部 | 資本金 | 622 | 1,013 | 162.9 | +391 |
| | 資本剰余金、利益剰余金及び自己株式 | 1,069 | 1,580 | 147.8 | +511 |
| | 株主資本合計 | 1,691 | 2,593 | 153.3 | +902 |
| | その他有価証券評価差額金 | △26 | △15 | - | |
| | 純資産合計 | 1,674 | 2,579 | 154.1 | +905 |
| 負債純資産合計 | | 7,981 | 8,649 | 108.4 | |

第三者割当による第3回新株予約権の行使により自己資本が増加

セグメント別損益

単位：百万円

| 売上高 | 19/8月期 通期実績 | 20/8月期 通期実績 | 前年同期比 (%) | 増減額 |
|------------|----------------|----------------|--------------|------|
| 環境・エネルギー事業 | 2,648 | 2,961 | 111.8 | +313 |
| 動力・重機等事業 | 2,249 | 2,410 | 107.2 | +161 |
| 防災・安全事業 | 743 | 732 | 98.5 | △11 |
| 合計 | 5,641 | 6,104 | 108.2 | 463 |

安定成長に加えて協立電機
工業買収によるM&A効果

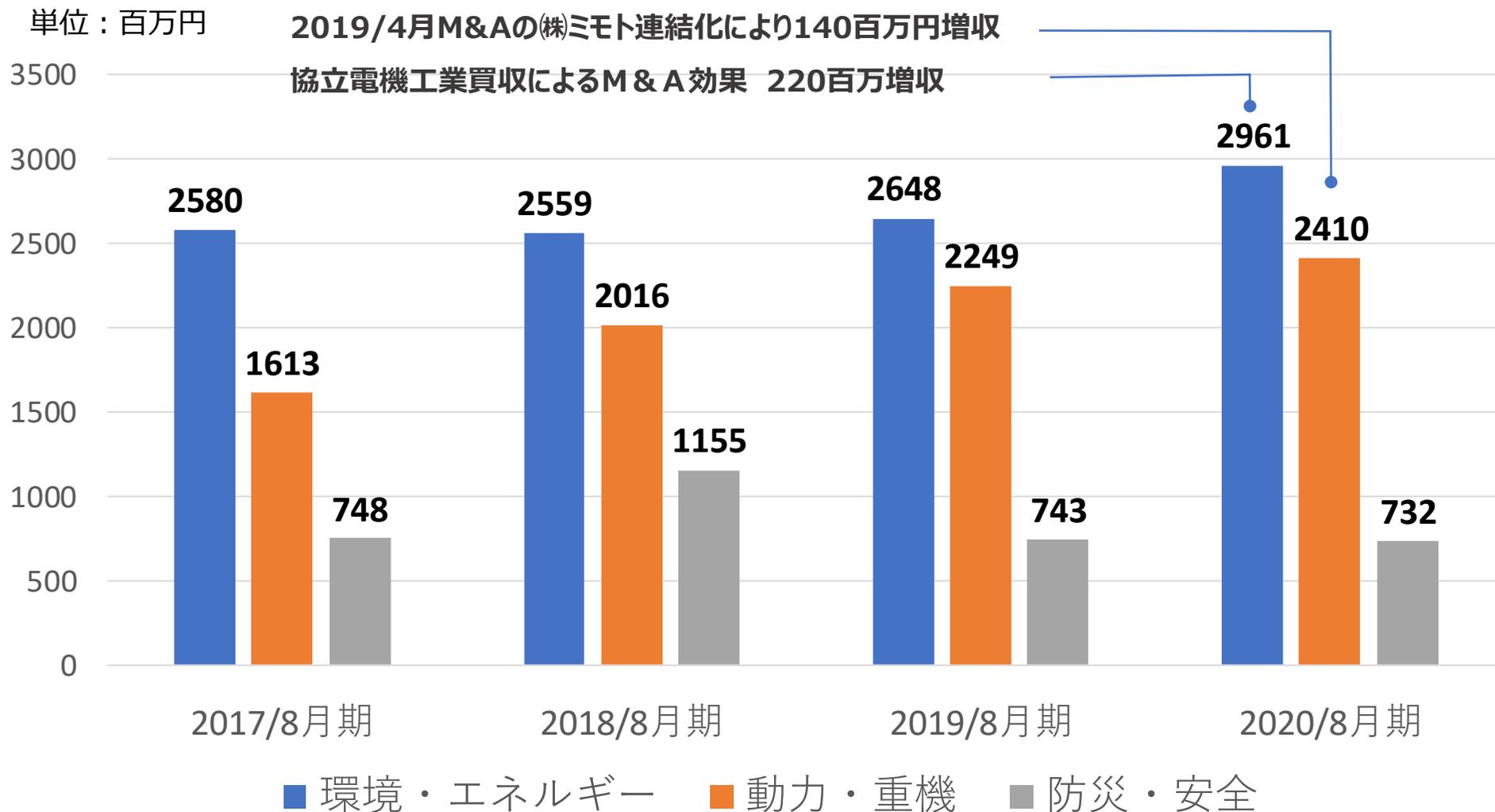
前期受注の防潮壁案件につ
いては納期延期により
2021/8月期での計上へ

| セグメント利益 | 19/8月期 通期実績 | 20/8月期 実績 | 前年同期比 (%) | 増減額 |
|------------|----------------|--------------|--------------|-----|
| 環境・エネルギー事業 | 86 | 100 | 116.3 | +14 |
| 動力・重機等事業 | 155 | 190 | 122.6 | +35 |
| 防災・安全事業 | 68 | 54 | 79.4 | △14 |
| 合計 | 311 | 345 | 110.9 | +34 |

製造子会社における原価低減・
生産効率の上昇策が進捗

売上高

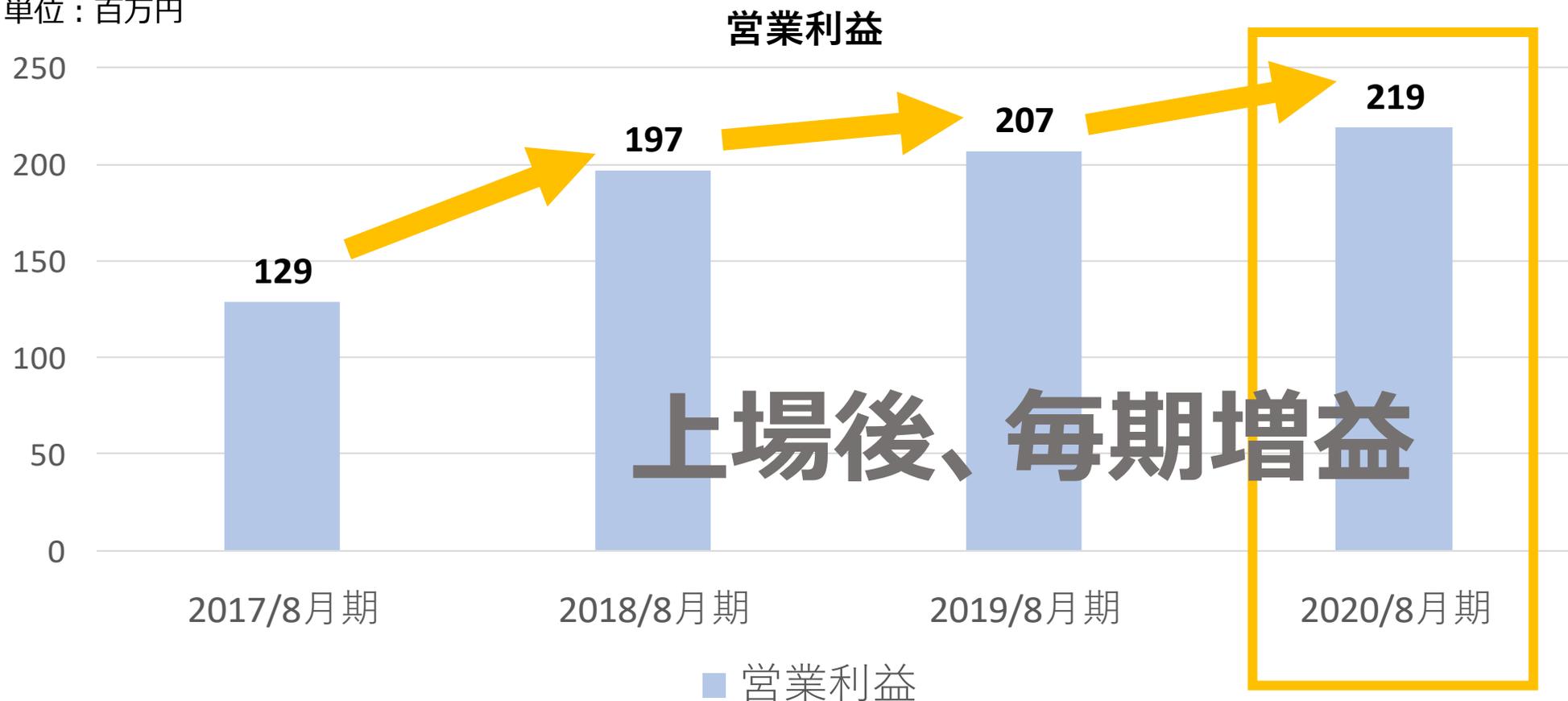
安定成長に加えてM&A効果が業績に寄与



営業利益

堅調推移-コロナウイルス感染被害が拡大し営業効率が低下した一方、M&A、原価低減、人材強化策で下支え

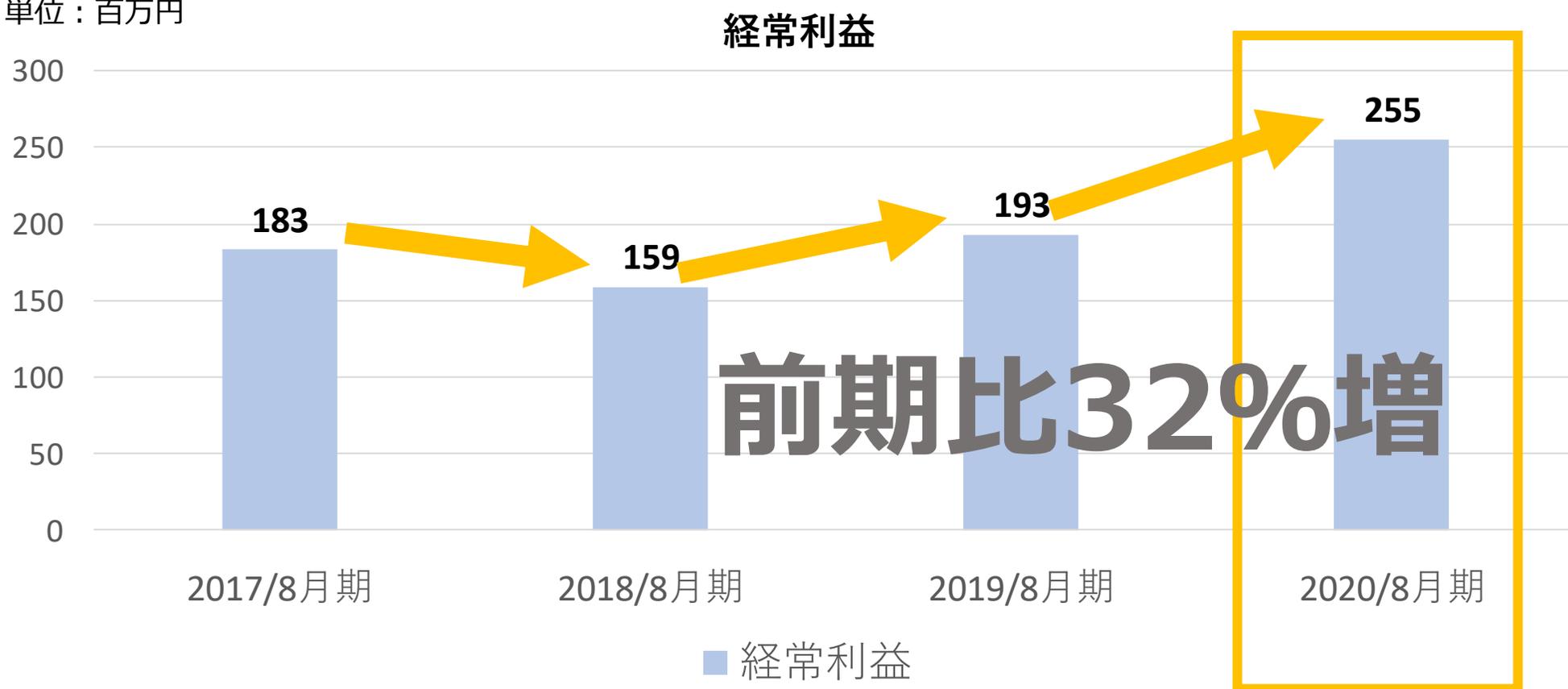
単位：百万円



経常利益

営業利益の増加に加えて投資有価証券売却益32百万円等を計上

単位：百万円



通期業績見通し

予想-連結損益計算書 (P/L) 3期間比較

2020/8月期は環境・エネルギー事業が成長の柱
動力・重機等、防災・安全事業は保守的に計画

単位：百万円

| | 19/8月期末 通期実績 | 20/8月期末 通期実績 | | 21/8月期末 通期連結 業績予想 | 前年同期比 (%) |
|---------------------|-----------------|-----------------|--|-------------------------|--------------|
| 売上高 | 5,641 | 6,104 | | 6,589 | 107.9 |
| 売上総利益 | 1,090 | 1,223 | | 1,347 | 110.1 |
| 販売管理費 | 882 | 1,003 | | 1,049 | 104.6 |
| 営業利益 | 207 | 219 | | 298 | 136.1 |
| 経常利益 | 193 | 255 | | 291 | 114.1 |
| 親会社株主に帰属する 当期純利益 | 143 | 222 | | 182 | 82.0 |

売上高-新たな取組みと見通し

環境・エネルギー

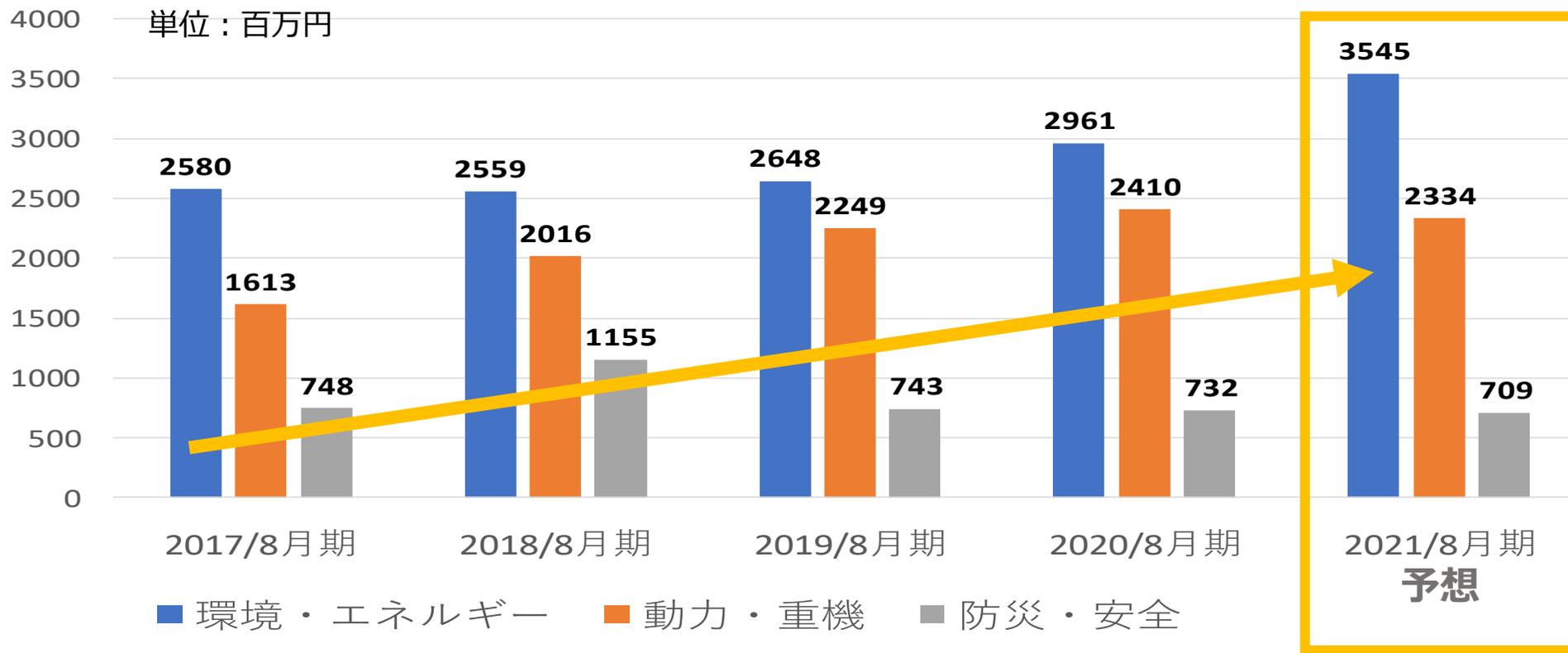
- 営業体制強化、防潮壁シーウォール及びオゾン装置需要の増加により成長見込み

動力・重機

- 船舶排ガス規制による関連機器で需要増加の期待があるが計画は保守的に見積り

防災・安全

- コロナウイルスの影響から市場に不透明感が残る。一方、需要は安定的で計画は前期並



セグメント別売上高 計画材料

環境・エネルギー事業 2021/8月期 売上計画3,545百万円

子会社の業績がフルに寄与

- 2020/12月に株式取得し子会社化した協立電機工業(株)の業績が2021/8月期は12か月フルに寄与（前期は9か月）

オゾン除菌市場の開拓効果

- 医療機器及び総合商社とのタイアップ営業を推進するほか、需要が増加傾向に推移していることから、受注増が見込まれる。

防潮壁シーウォール

- 工事の進捗遅れにより、期ズレとなっている大型案件の計上が見込まれる他、複数案件の引合いからも計上が見込まれる。

営業体制強化、防潮壁・オゾン装置の需要増加により成長見込み

前期比19.7%増

セグメント別売上高 計画材料

動力・重機等事業 2021/8月期 売上計画2,334百万円

安定的な営業基盤を確保

- 顧客メーカーから高い技術的評価を得ており、安定的な営業基盤は確保できている。さらに、主要顧客と数十年来の取引実績があることから、受注見込みは安定的。

工程見直しによる生産性向上

- 従来からの製造工程を見直し効率化を図ることで、短納期を図り、収益力の向上につなげる。

新規開拓の推進

- 造船関連機器及び部品市況は低調さが懸念されるが、こうしたリスクに備え、新規顧客の開拓に注力

船舶排ガス規制による関連機器で需要増加の期待があるが計画は保守的に見積り

前期比3.3%減

セグメント別売上高 計画材料

防災・安全事業 2021/8月期 売上計画709百万円

病院・介護施設への安定実績

- 消防法により一定規模にある病院や介護施設はスプリンクラーの設置義務があり、これらに対する導入実績は前期並みに見込まれる。

コロナ禍でのリスクを考慮

- スプリンクラー設置義務がある施設においても、コロナウイルス感染被害拡大を受けて導入時期を延期する動きを一定程度想定される。

水素ステーション向け需要

- 水素ステーション向け冷却装置として需要が拡大傾向にあり、需要増加が期待されるなか、最近の環境要因を考慮して保守的に計画。

コロナウイルスの影響から市場に不透明感が残る。一方、需要は安定的で計画は前期並

前期比3.1%減

配当方針

基本方針

- 将来の事業展開に必要な内部留保を見据えた株主還元
- 業績を考慮しながら安定配当を継続実施

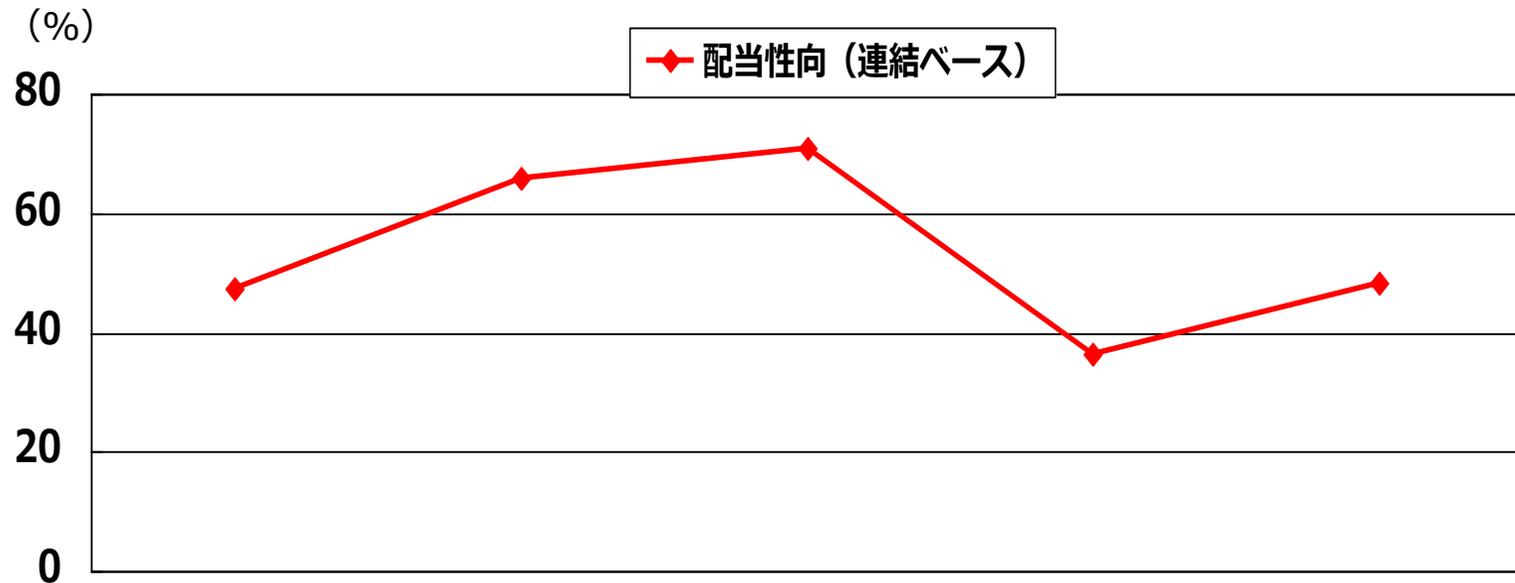
2021/8月期配当予想 1株当たり38円

2006/8月期から2020/8月期迄

15期連続配当を継続

株主還元

成長と株主還元を両立

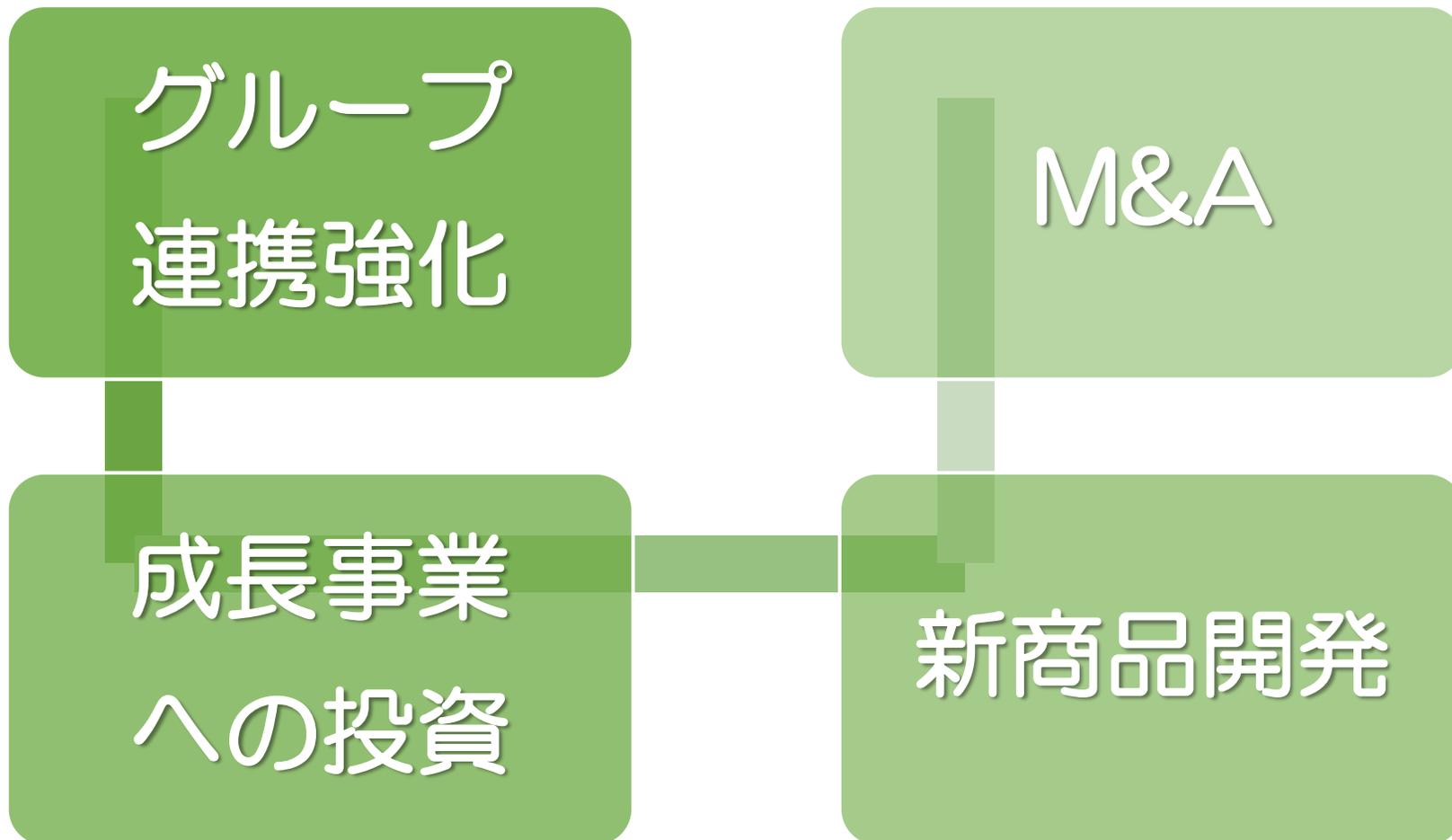


| | 17/8期 | 18/8期 | 19/8期 | 20/8期 | 21/8期 予想 |
|---------|-------|-------|-------|-------|-------------|
| 配当性向(%) | 47.5 | 65.8 | 70.9 | 36.3 | 48.4 |

成長戦略

成長戦略

連結グループ間の連携強化及び成長事業への投資を推進



グループ連携強化

当社とM&Aによる買収先 協立電機工業が連携して機器の修理事業を協働展開

まずは、**関東市場から展開**

→ 中部地区 → 関西地区へ順次拡大



成長事業アムノスHD羊膜製造販売事業への投資

当社出資比率13.5% 株式会社アムノス事業内容：再生医療に関わる調査、研究開発、製造・販売および輸出入

既存安定3事業の原資を将来性の高いビジネスに投資

再生医療周辺産業の市場規模は、2050年には**国内市場1.3兆円、世界市場15兆円**

進捗

収益事業計画は着実に進捗

同社の経営管理体制の整備に向けて
当社社長が同社の取締役役に就任しサポート

多様な資金調達手段を確保し、海外での事業展開を推進



新商品開発

- 新種のウイルス被害拡大に向けた不活化技術開発 -

2020年7月 多様なウイルスに対して有効な不活化機能を発揮するオゾン装置の開発をスタートする共同研究契約を国立大学法人東北大学と締結

共同研究体制・概要-オゾン装置開発

海外展開も視野に入れた新技術開発を推進



国際放射光イノベーション・
スマート研究センター

大学院 農学研究科



研究テーマ

オゾンガスがウイルスに及ぼす影響と研究成果に基づく、
ウイルス被害に有効なオゾン装置の開発

共同研究において 利活用される技術の概要

- ・ オゾンガス発生及びオゾン水製造技術（2020年～）
- ・ 次世代放射光技術によるメカニズム解明
FS（2020年～）次世代放射光施設（2023年～）
- ・ ナノバブル技術（2021年～）

オゾン除菌装置市場展開

比類なき技術を組み込んだ製品開発と市場展開



新製品

国内市場
想定市場規模
約500億円

国内における非加熱殺菌装置
市場でトップシェアを目指す

海外市場
想定市場規模
数千億円

グローバルな
市場展開を想定

(対象市場における装置類)

紫外線殺菌装置、次亜塩素酸系水溶液、オゾン水生成装置、オゾンや過酸化水素ガス生成装置、高圧殺菌装置など

※ 国内市場規模は矢野経済研究所の調査データを参考

当社グループ事業との関連性を重視

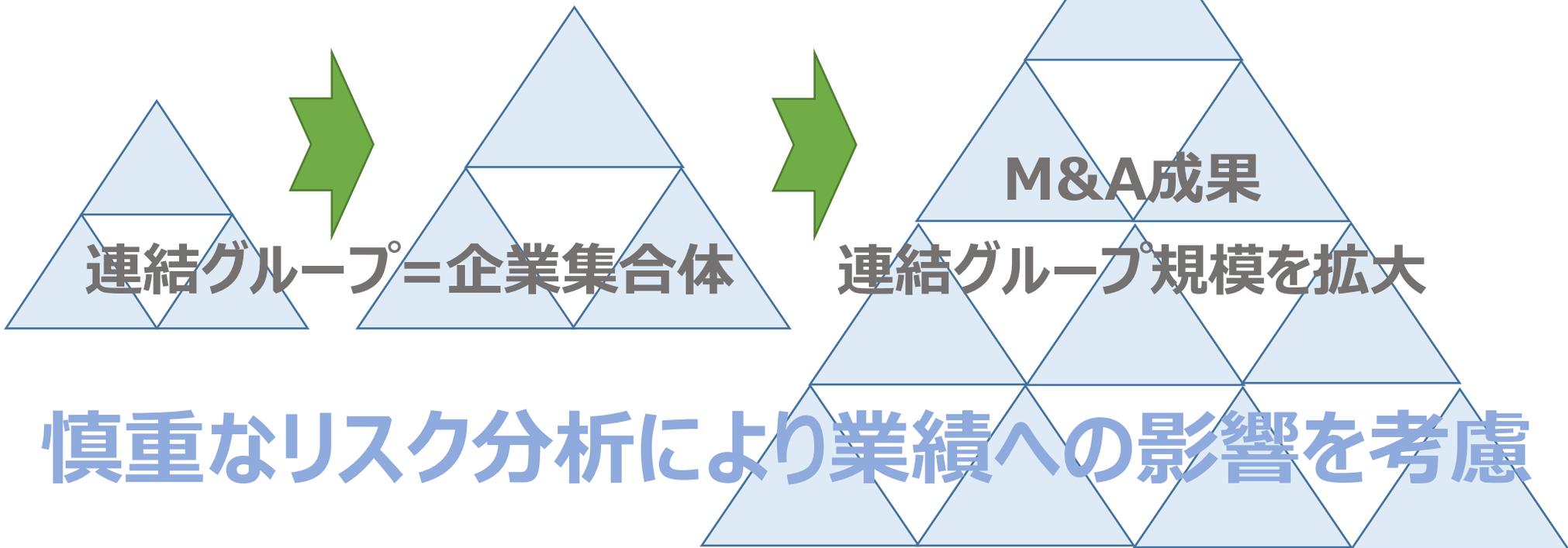
事業との関連性を重視し

営業強化・利益拡大につながるM&A

方向性

企業価値の向上に繋がるM&Aへの取組を積極化

スケールメリットにより企業価値を高める



新商品開発・新事業投資

時代に即した事業への投資

→市場とのマッチング効果を高めることに注力

従来、当社グループは財務レバレッジを利かした経営により

事業を拡大、成長してきました！ **今後は・・・**

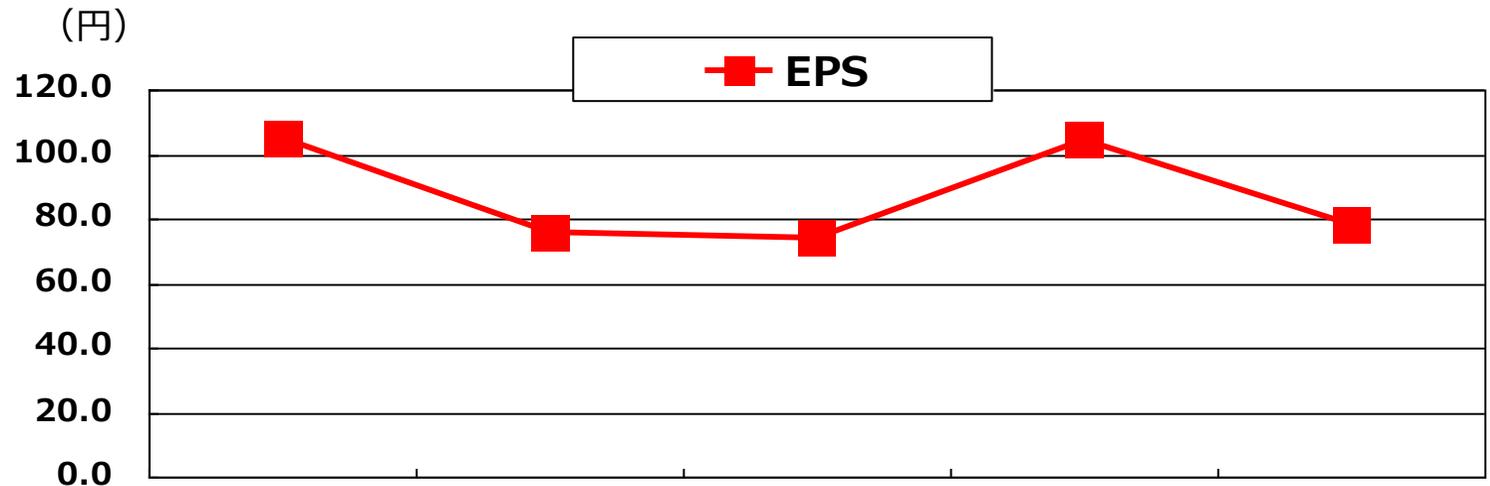
→ROAを高め、その成果としてROEを高める方向へ

ROA  **ROE**
(総資産利益率) (自己資本利益率)

投資方針

選択と集中により、一株当たり利益を最大化

有望事業・有効な戦略へ経営資源を集中的に投下



| 項目 | 17/8期実績 | 18/8期実績 | 19/8期実績 | 20/8期実績 | 21/8期予想 |
|---------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| EPS一株当たり利益(円) | 105.2 | 76.0 | 73.8 | 104.7 | 78.5 |

持続的成長を目指す

Aiming For Sustainable Growth

本資料に記載されている業績予想・計画ならびに将来予測は、本資料の発表日現在において入手可能な情報および、将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る、本資料発表日現在における仮定を前提としています。

実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。